

ひえつき節 日本一大会

9月7日（土）に、第33回上記大会が行われ、本校からもたくさん児童が参加しました。また、保護者の中にも出場されている姿が見られました。ふるさとの民謡を大切にしようとする姿に大きな拍手を送ります。

少年少女入賞者紹介（本校）

低学年 優秀賞 椎葉 花南
高学年 準優勝 椎葉一桜李

日々の授業を大切に！

- 1 子ども一人一人の理解度を1単位時間の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか？
- 2 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか？
- 3 指導内容は、子どもの実態にマッチしているか？
- 4 教師の指示や発問は的確で、子どもに伝わっているか？

上記は、日々の授業を実施するうえで、先生方が常に気を付けている項目です。

9月6日（金）は、参観日でしたが、授業はいかがだったでしょうか？

運動会シーズンになって、指導の手がゆるみがちな時期ですが、日々教室を巡回している目から見ると、「ここは、教える」「これは、考えさせる」等と目的意識のある授業が行われているように思います。

次の段階は、子ども達の「できた・わかった」を、どう見届けていくかを課題として考えているところです。



（※ 写真画像画素数の関係で、児童が判別しにくくなっています。ご容赦ください。）

校長のつぶやき

竹ぼうきを使って、運動場のトラックにほうきの「はわき目」を入れます。落葉を集めのではなく、ほこりを立てるでもなく、砂に一定の方向へ模様を入れていく単純な作業です。「トンボ（正式名称：レーキ）」や「グラウンドブラシ」で整備するというよりは、ただ「ひたすらに」同じ方向へほうきを動かすだけ…。

教諭時代、体育会系の大先輩に「自分の庭だと思って、やってみろ」と言われ取り組んだことを思い出し、ほうきを手にしています。5分も経つと背中に汗がにじんできます。修行のような感じにも似ていますが、場を見返すと不思議と気持ちがすっきりします。

